

2025年・第67回こどもの読書週間

(公益社団法人 読書推進運動協議会資料より)

期 間 4月23日から5月12日まで
(「子ども読書の日」から「こどもの日」をはさんで) 20日間)

テーマ 『家庭・地域読書のすすめ』
家庭・地域に子ども文庫をつくろう
親子読書を育てよう

標 語 あいことばは ヒ・ラ・ケ・ホ・ン！

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。家庭、地域、学校などでの読書活動を進めるため、毎年4月23日は「子ども読書の日」と定められています。

「子どもたちにもっと本を！」との願いから、「こどもの読書週間」は1959年(昭和34年)にはじまりました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間(5月1日～14日)でしたが、2000年より、今の4月23日(世界本の日・子ども読書の日)～5月12日になりました。

幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことが、次の世代を担う子どもたちにとって大切です。**本を読み、読んで考え、考えて行動する子どもたちが育つならば、青少年に関する多くの問題も解決されるのではないのでしょうか。**

子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えるとき、それが「こどもの読書週間」です。「こどもの読書週間」は、**大人が本を子どもに手わたす週間でもあるのです。**

〈家庭における読書環境の整備のポイント〉

- (1) 幼児には**家族が本を読んで**聞かせてあげる。
- (2) 子どもたちの**身近にいつも本を置く**ことを考え、**毎日たとえ短い時間でも**本を読むことをすすめ、本を読むのを聞いてあげる。
- (3) そして大切なことは、**家族みずからが読書する姿を、子どもの目に触れさせる。**

やがて、そこに本を中心とした話題が生まれ、家族の対話に発展していきます。

あべ 俊子 文部科学大臣 からのメッセージ

本の世界には、登場人物との出会いや著者の想いなど、様々な触れ合いがあります。誰かと一緒に本を読む、読んだ本の感想を話し合う、また、お気に入りの本を紹介し合ってもよいでしょう。本を通して人と人がつながることもできます。

調査によれば、**1か月の間に本を1冊も読んだことがない人の割合が、中学生・高校生で高い傾向にあります。**本を読む楽しさをぜひ実感してほしいと思っています。

そこで文部科学省では、本年度も「あなたと読みたい1冊」をテーマに「子供の読書キャンペーン」を開催することとしました。

各分野で御活躍の方々から、10代のときに読んでほしい本、様々な立場の人がいることを気付かせてくれる本、自分らしく生きることのヒントをくれる本など、中学生・高校生の皆さんへお勧めする本を御紹介いただくとともに、**読書の楽しさを伝えてくれる心のこもった温かいメッセージをいただきました。**

読書活動の推進に当たっては、学校や家庭、地域の図書館、書店などが連携することが重要です。中でも、図書館は全国に3、300館以上あり、そこにある本や設備、利用者向けのサービスも多種多様です。今回御紹介する4つの図書館では、10代の皆さんを対象にしたイベントの開催や皆さんの居場所にもなるような施設を備えています。

本を読むことで、何か新しいことと出会う、新しい自分と出会う、誰かとつながるきっかけになる。キャンペーンタイトル「#あなたと読みたい1冊」にはそんな想いが込められています。このキャンペーンにより、読書の楽しさや図書館の素晴らしさを感じていただくとともに、本を通じて新たな人とのつながりが生まれることを願っています。

文部科学大臣 あべ 俊子

LiLiCoさん（タレント、映画コメンテーター）おすすめの1冊

『妖怪バリアーをやっつけろ！』

三島亜紀子 文 三島エツコ 絵
平下耕三 監修 生活書院

実話に基づいているこの絵本を開いた瞬間から、このテーマを伝えるやり方と可愛い絵に魅了されました。障害がある兄弟が社会のバリアに立ち向かうことを「妖怪バリアー」という形をとって、陽気に、そして力強く描いています。

こうした魅力的なキャラクターを描いて、そして楽しくわかりやすく読者へ教えてくれるのは大切なこと。

大人が読みながらお子さんともコミュニケーションが持てるのと、想像を働かせるのには完璧過ぎるツールにもなる本。例えば、黄色い点字タイルに自転車を止めようとする男性の行動を「これ

どうしたらいいと思う？」と先に聞いたり、ヤスユキとコウゾウが妖怪バリアーに立ち向かう前にみんなが先に考える力にもなる。言葉の選び方も陽気で、ヤスユキとコウゾウは勇気を持って強く闘うことの大切さを教えてくれている一冊。



LiLiCoさん（タレント、映画コメンテーター）からのメッセージ

中高校生のみんな～、ヤスユキとコウゾウから学ぶことはたくさんあります。

みんなにとっての“普通”は人によってはとても困難。自分にいつ何が起こるのかはわかりません。他人事と思わずに、もし下に兄弟がいたらこの本でコミュニケーションをとってほしい。若いときから他人への思いやりを持つことは何よりの心の宝もの。障害がある方と最初はどう接したらいいのか気を遣ってしまうかもしれないけど、こうした本から、どんな風に社会のバリアを無くすのかをちゃんと自分で考えられる人になります。どんどん広めて、そして読んだときの気持ちを忘れないことが何よりも大事。大人の方へのあとがきも理解出来る年齢です。強さの向こう側にある切なさも感じ取れるはず。

まずは心のバリアを無くそう！